

会場には、能代高校1年部の方々、能代山本の市民の皆さんリモートにて、能代松陽高校1年部(A~D)の皆さんが参加

★これまでの秋田県のコロナ対策について、また今後の進め方

秋田県医師会ではコロナ発生当初から、具体的な対策を県に申し入れしていたが、(仮設診療所の早期開設等)どうしても予算を確保する為に、議会を通して、その結果をまってから、さらに県は国からの予算を申請するという手順があるため、非常にタイムラグがあったのは事実、またコロナ以前から慢性的に人手不足、コロナなどの感染症を専門に診れる病院の少なさも、対応が後手に回っているという印象を持たれたかもしれない。また、国の政策もあり、ベット数は年々減ってきている中で、誰でもどこでも医療を受けられる体制を構築する事が急務である。これはコロナ対策だけでなく、包括的に地域医療を守っていくという事にもつながる。必ずしも、地元の病院を守るという事だけでなく、別の場所の病院と連携し、治療にあたる事ができる様に、また、この様なパンデミックはこれからも起こる可能性はあるので、その時に慌てて対応するのではなく、日頃から地域医療を守る為に日々努力をしている。

小泉 ひろみ 氏

★今、求められているリーダーシップとは

いろんな、まわりの人の意見を聞いて進めていく、サーバント型(奉仕して、その後導く)がよいのではないかと、自分もそうだと思うが、同じテーブルで課題を出し合い、話し合っ、道を作っていく。ただし最終的に決まった事に対しての責任は、リーダーが持つ。たとえ失敗してもその責任はリーダーが持つ必要がある

小泉 ひろみ 氏

人を引っ張っていくというより、皆の意見を聞いて、落としどころを見つけて、まとめる。またリーダーは、まわりに不安を与えない事、そしてリーダーが責任を持つ。先日、行政視察で岡山県奈義町という所へ行った。ここは合計特殊出生率が2.95という驚異的数字を出している場所、ここの少子化対策などの手法を聞いて意見交換した際に、八峰町の議員から「うちもいろいろとやっているんだけど、なかなか成果がでない」という意見を投げた、その答えに目からうろこの衝撃を受けた。

奈義町行政職員「だったら、もっとやったらいいんじゃないですか？」

しつこくやり続けなければならないんだと思いました。

とにかく、子供、少子化対策を単体でやるのではなく、すべての施策に少子化対策を結びつける。言い訳より、成果がでるまでやり続ける事が重要だと強く実感しました。

奈良 聡子 氏



★能代高校生からの質問

秋田県医師会の会長職をになっていく上で、プレッシャーや落ち込む事などあると思いますが、そういう時にはどの様な対処をしていますか？

小泉 ひろみ 氏

日々めげたり、落ち込んだりしている事もあるのですが、とにかく、愚痴を言っています(自分の信頼できる身近な人に)愚痴を言えるというのはとても大切な事、自身の心療内科でも、卒業する子供達に必ず聞くのは、愚痴を言える人がいるか？という事です。

★能代高校生からの質問

秋田県では自殺率も高いので、秋田県のメンタル面を支えたいという思いから、将来心理学を学びたいと考えている。小泉先生のお話の中で、弱きリーダーで良いという事だったが、メンタル関係の職につく際に、強い言葉というのは必要なのだろうか？リーダーとしての強い言葉と弱きリーダーとの組み合わせについて教えてほしい

小泉 ひろみ 氏

心理療法の中で、いくつか手法があり、その一つにロジャーズ法というのがある。とにかくひたすら聞くという事なのだが、やはり聞くという事はとても重要で、その中で、共感はあるけど共鳴はしない。ここも大切です(治療する際に)もちろん、心理療法には他にもさまざまな手法がありますので、自分にあった療法を勉強してほしい。いずれにしても強い言葉で引っ張っていくというのは、必要ではないと思います。

★能代高校生からの質問

持続可能な社会をつくる為に求められているリーダーとは、持続可能な社会を作れるリーダーなのか？

持続可能な社会をつくるというのは目的ではなく、結果なのではないか。乱世と平穏な世では、求められるリーダーも違う。

良いリーダーに恵まれれば、必然的に持続可能な社会になると思う。そして、多数の幸せを思って行動できるリーダーが必要ではないか。

奈良 聡子 氏

